

第6回教育環境整備協議会議事録（要旨）の抜粋

北千里小学校PTA

C委員 このアンケート結果は、予想されたような結果だと思う。この結果からすれば、校名を変更しない方がよいという意見で私はよいと考えている。青小ではそういうことでよいと思っている。いろんなことが考えられるが、北小を造ったときの経緯、その他があると思うので、この結果から見ると、最終的には教育委員会が判断すると思うが、協議会では「変更しない方がよいのではないか。」という答申を出せばよいのではないか。

B委員 アンケートの結果を見れば、皆さんが今まで言っていたことが反映されていると思う。それぞれが背負ってきた意見をそれぞれが言ってきたのだと思う。両論併記にならざるを得ないのではないか。それぞれの代表者が言ってきたことと大きく変わる結果ではないので、これをもって大きく意見を集約しなおすことはできない気がする。だから、両論併記的に書き、H委員のコメントを入れて、教育委員会にできるだけよくなるように考えてほしいという意見を付けるぐらいの印象である。

J委員 数でうんぬんという話になっているが、そもそも、協議会でアンケートを取ると決めたわけである。アンケートを取る限りはその結果を尊重するというのは当然の話であって、「アンケートを取ったが、最初からこうだった。」といったアンケートの取り方であれば、取った人に失礼だと思う。協議会でアンケートを取ると決めた以上は、その結果は尊重すべきで、いちいち確認する話ではない。だから、数字を挙げて、さっき話し合った内容を書きながら、「アンケートの結果はこのように出ている。この方向性はアンケートの結果出された。」それを受けて、どうするか最後の判断は教育委員会であると思っている。

H委員 アンケートを取ることに、協議会の意見として明確にする、しないということをはっきりとさせるためというふうに理解をしていなかった。いろんな意見があるだろうということでのアンケートを取ることに重点を置いていると思っていたので、それを受けて、この協議会で意見として明確にする、しない、まして、この数字を見たときに、今まで、それぞれが背負っていたものがはっきりと数字として表れているということである。裏づけられたというふうに感じている。そういう意味では、最終の数字を見て、「多い、少ない」ではなく、それぞれの特色といったものを、「それについて、重きを置いてください。」ということが、数字で裏づけられたのではないかと感じている。それぞれの立場といったものを、明確にただけということにはなってしまうが、その分について、「数字でもって裏づけをした形になるので、しっかりやってください。」と。「その部分をデータとして積み上げたということだ。」と感じている。

D委員 廃校になる1つの学校と存続する2つの学校があるので、係数を掛けてみて、「変更しない方」については2で割ってみてもよいと思った。そうすると、「変更しない方がよい」と「変更した方がよい」というのは、だいたい同じぐらいではないかと思っている。H委員が出した意見で協議会としてはまとめてもよいのではないかと思っている。古小と青小のお互いの比率が測ったようにほとんど同じになっている。先ほどから意見として出ているように、協議会では決められないというのが正直な意見である。それをH委員がうまく表現したのではないかと思う。どちらかにドライブを付けようとする議論が生じてしまう。H委員の表現はうまくできていると思う。

H委員 アンケートの結果からということであれば、以前から、北小から変更をしてほしい理由として、垣根を無くすためだと言っている。それが半数を超えているということである。古小、青小は変えない方がよいということがあるので、アンケートの結果を踏まえたということは当然であるが、変えるのであれば、古江台・青山台の方々が納得する理由づけを教育委員会がしっかりとする。変えないのであれば、垣根を取っ払うようなものをしっかりと作ってもらうということを、この協議会では教育委員会にお願いをすることでよいのではないか。

A委員 教育委員会の言っていることもわかるが、もし、「変更しない」となれば、北小が思っている垣根をどうやって無くすかということについて、他の委員の意見を聞きたいと、今日の最初に発言した。「変更する」となれば、逆に、皆さんから「どうやって納得するのか。北小は何か意見を持っているのか。」となり、言わなければならない。それは協議会で言うべきことだと思う。私は、先ほどは説明不足だったかもしれないが、アンケートの結果をもって、皆さんは意見を持っているかを投げかけたつもりである。もし、協議会で「しない」「する」を決めるのであれば、もう少し深いところの意見を出さないと、何のために協議したのかが中途半端に終わってしまう。深い意見をこの場で言い合うのがよいかどうかは、私にもわからない部分があるが、「しない」「する」を言うのであれば、その辺の意見をいただかないと、単にアンケートの結果を見て、「決まった」となれば、持ち帰り、どう説明をすればよいかわからない。そうすると、「協議会で何を話したのか。」となる。それがあから、この結果を受けて、どういうことが解決につながるのかについて、意見があるのかを最初に問いかけたつもりである。一つの意見として、他の委員から、「そもそも、する、しないをこの場では決められないと言っていたではないか。」と。大きな意見であると思う。それに対して、教育委員会からは「決めてほしい。そのうえでプラスアルファの意見を言ってほしい。」と。それであれば、私たちはこの場でプラスアルファの意見を言わなければならないのではないか。それは、かなり深い意見になるのではないか。北小の立場から言えば、もし、協議会で「しない」「する」を決めるのであれば、「どうすれば垣根を無くすことができるのか。」について、皆さんの率直な意見を聞かせてほしいと言っているだけである。